

「レーザー研究」の更なる充実に向けて

西尾 悟[†]

For Further Completeness of "The Review of Laser Engineering"

Satoru NISHIO[†]

毎月、レーザー学会の封筒に包まれた会誌「レーザー研究」が手元に届くのを楽しみにしている会員の方々も多いことと思う。ところでこの「レーザー研究」が毎号どのように編集されているのか興味をお持ちの方も多数おられるのではないだろうか。筆者は今年5月まで2期4年にわたり、八木前編集委員長のもと、編集委員幹事を努めさせていただいた。そこでこの場を借りて、実務の視点から日ごろの編集活動について少しご紹介させていただこうと思う。

編集委員会は大学、国研、企業を問わず様々なレーザー関連分野の専門家で構成され、毎月一度、東京または大阪で開かれている。会議の内容は、翌月号のゲラチェック、特集・解説小特集企画案作成、レーザーフラッシュ企画案作成、投稿論文の掲載可否決定、長期的編集計画など多岐にわたる。編集委員会の仕事の中で特に重要なものが特集・解説小特集企画案作成である。原則各号につき1つの特集あるいは解説小特集が組まれる。内容の濃い企画案が数多く出されるため、企画案が可決されてから実際に掲載されるまでに若干時間が掛ってしまうという問題もあるが、読者にとって有益な情報源としての位置づけをすでに確立しているものと思う。ここで特集と解説小特集の違いについて簡単に触れておこう。特集の解説記事は著者自身の研究を中心として、その方面の進歩の状況や将来動向などをまとめたものである。また解説小特集の解説記事は主題の分野について専門外の会員にも理解できるように準備の説明からはじめて、最近の成果、将来動向などを啓蒙的に平易に解説したものである。いずれも数編の解説記事と関連したオリジナル論文からなる。これらの原稿は編集委員会から依頼するものであるが、関連したオリジナル論文は、一般投稿論文としても受け付けている。これらの情報は各号の“Self-Focus”の欄に記載されている。この他に「レーザー研究」では昨年度よりレーザーフラッシュという掲載区分を設け、レーザーおよびその応用に関する現状、動向など会員に役立つ情報を提供している。これまでにレーザー関連のベンチャー企業に関する記事を数号に渡り紹介するなど、様々な視点から会員の方々に楽しんでいただけるような企画が編集委員会で検討されている。

さて「レーザー研究」をより充実したものにするためには、興味ある特集・解説小特集あるいはレーザーフラッシュの記事掲載はもとより、会員からの質の高い論文の投稿をいかに増やすかにかかっているといても過言ではない。残念ながら投稿件数は毎月数件程度と少ない。このような中、編集委員会では質の高い論文を少しでも多く掲載すべく様々な工夫を凝らしている。例えば会員の方々はオリジナル論文にはIとIIという2種類カテゴリーが設けられていることをご存知だろうか。カテゴリー-Iは、レーザーに関連した諸分野における基礎あるいは応用に関するもので、その内容がレーザー科学の見地から価値があると認められた、いわゆる通常の原著論文である。カテゴリー-IIは、投稿者自身の一連の既発表研究成果を新たな視点で再構築して、新規の考察や更なる発展の展望を加えたものである。後者については、投稿者の一連の研究結果を読者に総括的に理解してもらえるとといったメリットがある。会員の方々にはカテゴリー-Iに加えてカテゴリー-IIでの投稿もお勧めしたい。また編集委員会では、年次大会において優秀論文発表賞を受賞した若手研究者やレーザー学会主催の様々な研究会において優れた発表をされた研究者などにその内容をオリジナル論文として投稿してもらい、査読の手続きを経た上で掲載するなど優れた投稿論文を集める努力をしている。

編集委員会は今年6月より神成委員長のもと、新しい体制でスタートした。今後「レーザー研究」を更に発展させるべく、単に国内向け和雑誌に留まらず、国際的な情報誌として世界を視野に入れた発信力強化を目指すといっ

[†]立命館大学 理工学部応用化学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

[†]Department of Applied Chemistry, Faculty of Science and Engineering, Ritsumeikan University, 1-1-1 Noji-higashi, Kusatsu, Shiga 525-8577

た新たな方向性も模索されつつある。筆者は幹事の職は辞したが、引き続き編集委員として微力ながら尽力したいと考えている。最後に、「レーザー研究」の更なる充実には結局のところ、会員一人ひとりの「レーザー研究」への参加意識の高まりが不可欠であるように思う。そういった意味でも会員の方々には「レーザー研究」への論文投稿はもちろん、「レーザー研究」を通じた様々な情報発信を切にお願いしたい。また、取り上げてほしいトピックスなど、「レーザー研究」に関するご意見、あるいはご要望があるときは是非とも巻末に記載されている各編集委員または事務局までご一報いただきたい。「レーザー研究」が今後も情報提供の場として会員の方々に広く愛読されていくことを願って止まない。